



## こころの虹

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

♥ホームページ URL <http://www.oikawahp.net> ♥Eメール address [info@oikawahp.net](mailto:info@oikawahp.net)

## 患者様の権利と義務

患者様には「ご自身が生命の主人公」として、医療従事者とのよりよい人間関係を築いていきますよう以下の「守られていること」「守っていただきたいこと」があります。

## 人格権

患者様は個人としての人格、価値観などを尊重されます。

## 受療権

いつでも必要かつ十分な医療サービスを受けるために、医療機関を選択する権利があります。

## 知る権利

病名、病状、診療計画、検査・手術、薬、必要な費用などについて、納得できるまで説明を受ける権利があります。  
同時に、私たちに既往歴、現病歴、現在の治療内容、アレルギー歴など健康に関する情報を正確にお伝えください。

## 自己決定権

十分な説明を受け、理解した上で、提案された診療計画などを自らの意志で決める権利があります。  
同時に、それらの内容に関する指示を守る義務があります。  
納得できない場合は、他の医師や医療機関の意見を求めることができます。

## プライバシーに関する権利

個人の秘密や医療に関する個人情報を守られ、私的なことにみだりに干渉されない権利があります。

## 参加する権利

診療内容や病院の運営につき苦情や意見を述べ、医療改善の活動に参加する権利があります。安全性を高めるためお名前の確認などにご協力ください。

乳腺外来に来られる方は、術前術後の化学療法の方、自覚症状があったり紹介状を持って見える方、そして自覚症状はないけれど検診にみえる方など様々です。そのような中で、最近、自覚症状はないが検診にみえた方に乳がんが見つかるケースが増えてきました。以前は自分でしこりを感じたり、婦人科の先生から紹介されて来られる方に乳がんを見つけていました。それが検診に来られた方の中から見つかりだしたというのは、乳がんにかかる方が増えたというよりは、検診に来られる方が増えたからなのだろうと思っています。そしてそのことはとても重要なことです。よく言われるように乳がんは発見が早いほど治りやすい病気です。手術をしても傷が小さくて済む場合もあります。しかしとても小さなしこりなど自分で見つけにくい場合も少なくありません。検診を受ければ視触診の他マンモグラフィや乳腺エコーを使って検査します。そうやって定期的に自分の体をチェックするということは大切なことです。検診率を上げたい、それが今の私たちの願いです。当院で毎年行っている「母の日キャンペーン」も検診を応援するためのものです。また今年も福岡市から乳がん検診の無料クーポン券が配られます。こういう機会に多くの方に検診を受けていただいで、ご自分の体を見守っていただきたいと思ひます。6月から婦人科の永淵先生にも乳がん検診をお手伝いいただいでいます。これからも検診を受けていただきやすい機会づくり、環境づくりに励まなければならぬと思っています。



## 母の日乳がん検診応援キャンペーン

及川病院は今年も、親子やご友人と誘い合って検診に来ていただきたいという趣旨のもと、お二人以上と一緒に検診に来られると、お帰りの際にお菓子をプレゼントするキャンペーンを5/1~6/30の2ヶ月にわたり行っています。

最近ではマスメディアでも乳がんの早期発見を訴える記事やニュースを目にするようになりましたが、我が国の乳がん検診の受診率は10%にすぎません。

乳がんは早期発見で治癒率が上がる病気です。乳がんの早期発見は、乳腺専門病院である及川病院の重要な使命であると考えています。

- ◎対象：「母の日のプレゼント」ですが、既婚・未婚、新患・再来は問いません。症状の無い方の検診に限ります。女性の方のみ。
- ◎期間：平成22年5月1日～6月30日の間に受診された方。
- ◎予約：必ずお二人以上、同日同時間帯でご予約ください。ご予約のお電話はどなたか代表で構いません。その際「母の日キャンペーンで申し込む」とお伝えください。
- ◎検診内容：『自費による乳がん検診』となります。詳しい検診内容につきましてはご予約の際にお尋ねください。（医師の指定はできません。）
- ◎プレゼント：検診終了後に『バンフの森』のクッキーを受付にてお渡しします。
- 受付時間／平日9：00～17：00 土曜日9：00～17：00  
092-522-5411
- ホームページは及川病院で検索

# 新任スタッフ紹介

及川病院に新しい仲間が増えました。患者さんにより信頼していただける病院であるために、より一層努力をしていきたいと考えています。よろしく願いいたします。



## 乳腺科医師 永渕 悦子



はじめまして。産婦人科医です。現代の超高齢化社会では健康管理が大切となっています。特に女性は平均余命が85歳を超える時代となり病気になる前に検診で早めに異常を見つけることが今まで以上に必要となっています。そして女性の健康管理に乳がん検診、子宮がん検診は欠かせないものになっています。このたび及川病院で検診を担当し女性の健康管理をサポートさせていただくことになりました。どうぞよろしく願いいたします。

## 緩和ケア病棟師長 上馬庭 昌恵



初めまして、上馬庭 昌恵（かんまにわ まさえ）と申します。平成22年3月23日より4階緩和ケア病棟で勤務させていただいています。簡単に自己紹介をさせていただきます。出身は鹿児島県です。家族は主人・息子2人の4人家族です。主人の転勤の為に2年前に引っ越してきました。リンパ浮腫外来や訪問看護などを経験してきました。特技は笑う事です（笑）。趣味は家庭菜園で育てた野菜をおいしく食べる事。当緩和ケア病棟で勤務してまだ2ヶ月しか経っていませんが、患者様から多くを学ばせて頂き、スタッフから支えられながら毎日楽しく勤務させて頂いています。これから、自分に何が出来るかを日々考えながら少しでも患者様のお役に立てる様精進して参りますのでよろしくお願い致します。



## 緩和ケア病棟便り

緩和ケア病棟医長

江頭 真理子

このところ、体験入院やレスパイトケア（介護しているご家族にリフレッシュしていただくためにお預かりする）や一般病院から在宅へ戻る前のワンクッションの目的などの入院も積極的にお受けするようになっています。

そうすると、いろいろな段階の病状の患者さんがみえることになり対応が大変なこともあります。

そのメリットは何かというと、状態が悪くなられていてコミュニケーションもままならない初対面の患者さんを迎え入れる事が避けられるということです。スタッフはその患者さんやご家族がどのような方達で、どのようなことを大切にされていたり、どのように療養したいと考えておられるのかを知った上で、その方に応じたケアを提供したいと考えています。

ですから、比較のお元気なうちに関わりが持てると、お互いを知り合え、どのようなケアが受けられるのかを予め分かった上で再び来ていただけるということなのです。

ご家族の予期悲嘆（大切な人を失うことになることへの悲嘆）のケアを早い時期から始める事が必要と考えています。

最後の場所ではなく、より自分らしく良い時間を過ごしていただく場所として利用していただけるようにと願うばかりです。



# ボランティアさんのご紹介！

及川病院にはボランティアとして、ご入院中の患者さんのお話を聞きながらハンドマッサージをしてくださる『ハウトケア』の皆さん、ひな祭りやクリスマスに素敵な歌を聴かせてくださる『ムーゼンクランツ合唱団』の皆さん、毎月一回楽しい落語を披露してくださる『九州大学落語研究会』の皆さんが来てくださっています。



今年3月、及川病院でのボランティア活動に対し、感謝の意を込めて上記の皆さんに感謝状を贈らせていただきました。



ボランティアさん！  
いつもありがとうございます！

大変喜んでいただけたことを、嬉しく思っています。

## 栄養科おすすめメニューその⑦

我が家の財布の紐が緩みっぱなしで家計がピンチ！！こんな時は庶民の味方もやしの出番です。もやしレシピを検索していたらおいしそうなレシピを発見！ちょっとだけ作り方をアレンジさせてもらって、さらに簡単に作っちゃいました。もやしはただ安いだけじゃないんですよ。ビタミンC、B1、B2、カルシウム、鉄、食物繊維などを含んでいるので肌荒れや風邪予防、疲労回復、便秘予防に効果的なんです。

### もやしと卵のあんかけ

材料4人分

もやし	1袋
卵	2個
塩	少々
こしょう	少々
ごま油	適量



味ポン	大さじ3
砂糖	大さじ2
中華だし	小さじ2
水	100cc
片栗粉	大さじ1



- ①もやしは洗い、上記の味ポン～片栗粉までの調味料を混ぜ合わせておく。
- ②フライパンにごま油を入れ、塩こしょうをして強火でサッと炒め、溶き卵をまわし入れる。
- ③②をお皿に盛り付け、フライパンに①で混ぜ合わせた調味料を入れトロミがついたらもやしの上にかける。



## 7) 生検

前に述べた穿刺細胞診(針生検)は細胞の小集団を吸引、採取しますので、細胞の“顔”をみて、病理診断しますが、乳癌と良性疾患の境界病変やいわゆるおとなしい癌などの場合には、細胞のみではなく、組織構築を参考にして診断しなければならないことがあり、組織の塊が必要となります。

外科的生検には摘出生検と切除生検があり、腫瘍を全部または部分的に摘出します。外科手術直前に生検し、迅速凍結標本で病理診断を行う方法がありますが、一回で診断と手術ができるという利点がありますが、凍結切片を作成する装置、病理医の待機が必要であり、病理診断も困難な場合があります。

最近では、比較的大きな針で組織を採取するコア針生検が行われています。これにより、少量とはいえ、癌組織が塊として得られ、病理診断が容易、正確となります。また、皮膚の切開の範囲は狭く、傷跡はほとんど残りません。

ステレオガイド下生検は石灰化のみの非触知病変(触ることができない)を立体的にピンポイントで確認し、マンモトームで吸引します。

生検の結果は癌であるか否かだけでなく、乳癌の組織型(癌の種類)、グレード、ホルモンレセプターの有無、ErbB-2(HER-2)遺伝子の発現、さらには場合により遺伝子発現プロファイルにより、個々の患者さんに特有な乳癌の性格の情報が詳細に得られますので、術後の全身治療の必要性、種類の決定、予後の予測などが決定できます。

乳癌の手術前の検査として、前述のような乳癌の画像診断および病理組織学的な診断により、個々の患者さんの乳癌の性格、大きさ、広がりが判明します。また、肺、肝臓、骨などへの全身的転移の有無をチェックします。これらの要因に基づき、手術法が複数ありますので、患者さんに説明し、どのような手術法がベストであるかを議論し、同意を得ます(インフォームドコンセント)。